

(一財)北海道開発協会では、非営利の市民団体が行う地域活性化活動に対して平成14年度から助成を行っており、これまで153件の活動に支援を行ってきました。これらの活動がさらに発展していくよう平成20年度から助成を受けた団体の方々が活動成果等を発表し、参加者同志が地域づくりについて自由な意見交換をしていただく「助成活動発表会」を開催しています。今回の報告では、令和4年度に助成を受け活動された4団体の成果の紹介や、地方の共創について意見交換を行いました。

クローズアップ

令和5年度 地域活性化活動発表会 各地で展開する地域活性化活動をサポート

(一財)北海道開発協会開発調査総合研究所

【第1部 地域活性化活動報告】

『みんなで作る宗谷。slow&active SOYA PARTY』

・NPO法人 街にいき隊PRO (稚内市)



尾崎 篤志氏

NPO法人街にいき隊PROは、商店街の活性化と地域の活性化を目指す団体として2012年より活動を始めました。2016年には宗谷総合振興局と宗谷の魅力情報を配信するガイドブック『SOYA PARTY BOOK』の制作に3年程関わり、

ガイドブックは全国から問い合わせをいただくなど好評でした。

稚内にはロケーションが良くても、あまり注目されていない場所が多く、稚内の魅力をさらに広げるため、ハンモック、あぐらチェア、コーヒーを淹れるキットなど『宗谷のんびりセット』を無料で貸出し、好きな場所でゆったりとした時間をすごしていただく取組みを行いました。無料の条件には、利用している写真と文章をメールまたはSOYA PARTYのFacebookに提供していただきました。利用者は、ノシャップ公園でハンモックを利用したり、港の船着き場で読書を楽しんだり、稚内公園や北海道遺産の北防波堤ドームでコーヒーを淹れるなど、それぞれの時間を楽しんでいます。

貸出しの際は、商店街でお弁当やお菓子を購入するなど、買い物と併せて一緒に楽しんでいただくよう、

アナウンスをしています。利用者からは、「小さな非日常が思い出に残った」、「時間を有効に使えた」、「地元の方と交流ができた」などの感想をいただき、そのほか「持ち運びが大変」、「写真共有が苦手」というご意見もありました。

稚内は最北端の町というイメージが9割で、観光も宗谷岬を見た後、何もすることがないと言われてますが、森林公園や中央商店街には知られていない楽しみ方も多くあります。こうした稚内の魅力を提案することで、また来てもらえるよう、皆さまからの情報も集め、まちづくりマップ『流氷溶けて』を作成中です。今後は観光協会や他の団体と連携しながら2024年度も継続して活動に取り組んでいきます。

『摩周・屈斜路トレイルの利用推進』

・NPO法人 てしかがトレイルクラブ (弟子屈町)

NPO法人てしかがトレイルクラブは、歩く道をつくり、歩く人をもてなす文化が地域に根付くことで、住民が地域の魅力を再発見し、より豊かな気持ちで暮らすことができるようになることを考え、トレイルを軸とした持続可能な地域づくりに向けて活動しています。



小林 由紀子氏

摩周・屈斜路トレイル (以下「MK T」) は、2020

年10月に阿寒摩周国立公園内の弟子屈町エリアでオープンしました。摩周湖第一展望台から屈斜路プリンスホテルに至る約50kmのルートは、「火山の道」「湖の道1」「湖の道2」という3つのセクションで構成されています。将来的には美幌峠を經由して屈斜路湖を周回するルートの完成を目指しています。

今回の活動では、ルート上の迷いやすい場所に道標と補助サインを設置しました。さらにインバウンドを念頭に地域の自然や歴史を日英2か国語で解説する看板を設置しました。看板は環境省が示す国立公園のガイドラインに沿ったデザインにより制作しました。この他、MK T全体が把握できるガイドマップを日英2か国語で作製し、ホームページからダウンロードができるようにしました。

環境保全も当NPOの大きな目的の一つです。地域の参加者を募りながらイベントとして外来植物のオオハンゴンソウやアメリカオニアザミの駆除を年4回行い、トレイル上のゴミ拾いも積極的に行うことで、徐々に町民の意識も変わってきたと思います。今後は、歩く人を応援したり、飲料水を提供するなどのもてなしをする“トレイルエンジェル”が増えるよう、地域の関係者に働きかけを行っていきます。

トレイルの年間利用者は、2022年85人、2023年165人とまだまだ少ないですが、目標は1万人を目指しています。今後は、ハイカーへの情報発信を更に充実させ、インバウンドに対応するためにホームページの多言語化を図り、さらにルート整備にボランティアを募るなど、持続可能な仕組みづくりをしていきたいと思っています。

『ロコサイクリストによる「とかち豊頃サイクリズム」体験メニュー造成・プロモーション事業』

・とかち・とよロコサイクリング（豊頃町）

とかち・とよロコサイクリングは、2022年4月に民間企業、行政職員、酪農家の方々が集まり地域サイクリストによるプロジェクトチームとしてスタートしま

した。主にサイクル情報の発信やオリジナルツアーの企画等の活動に取り組んでいます。

令和3年度にナショナルサイクリングルートとしてトカプチ400が選定され、十勝管内のサイクリズム人気が高まっています。トカプチ400のルートは、豊



越後 秀顕氏

頃町の国道38号と国道336号の一部を通っており、湧洞沼、長節湖、十勝川、大津海岸など、自然豊かな地域ルートの可能性を秘めています。一次産業の盛んな豊頃町は、四季折々に変化する畑や牧草地、漁師町など、人々の暮らしや産業がつくる景観も見どころです。

今回の活動では、豊頃町のサイクル情報を発信するホームページを開設し、景観の良いサイクリングコース、地域のおすすめスポットなど、地域の魅力を発信しています。サイクリングコースは、Googleマイマップ機能と連動しており、スマートフォンからアクセスすることで、現在地確認ができ走行時のナビとしても利用ができます。また情報発信はFacebook等のSNSも活用して行っています。

2022年秋のモニターツアーは、“とよロコガイドと行くとかち発祥の地「大津」湖沼めぐりツアー”を実施しました。2023年冬には「十勝川河口ジュエリーアイスサイクリングツアー」を行いました。

今後は、トカプチ400に接続する地域ルート、豊頃町内のサイクリングルートや地域情報の内容を拡充しながらホームページおよびSNS等を活用し情報発信を行います。また、ガイドツアーの継続には地域の魅力を伝えるガイドの育成も重要です。豊頃ガイドマニュアルとして豊頃町の歴史編、産業編、ジュエリーアイス編の基本的情報を用意するなど、ガイド育成にも力をいれて活動していきます。ツアーには集客の課題もありますが、十勝サイクリング協会や十勝管内のサイクリング団体と連携して集客を確保していくとともに豊頃町の魅力を広めていくイベント活動を行います。

『基幹産業である農業を活用した「まちなか」活性化事業』

・NPO法人 芽室まちなか応援隊（芽室町）

NPO法人芽室まちなか応援隊は、シャッター街化する中心市街地の活性化を目的に商工業者と農業者が集まり設立した団体です。

芽室町は、おいしい野菜が作られる地域ですが、その多くは大市場へと流れ、町民や飲食店が旬の地元野菜を使用することが難しい状況でした。町民からは、「芽室産の野菜が食べたい」、「郊外のスーパーまで買い物に行くのが大変」などの意見もあり、町民が旬の地元野菜を身近に感じ、簡単に食べられる環境を整えたいと、「めむろ野菜ヌーボー」の取組みを行いました。

「めむろ野菜ヌーボー」は、芽室町の農業者と飲食店等がタイアップし、飲食店等がほしい野菜を携帯やパソコンから注文でき、農業者が直接店舗に届けることで、これまで町内で販売されていない野菜等も飲食店で扱えるようになりました。

町民に、芽室町産の野菜を扱っていることがわかるように、取組みに参加する11店舗では、「めむろ野菜ヌーボー」ののぼりを立てたり、芽室野菜カレンダーを配布しました。まちなかの本屋、パン屋、レストランでも野菜を販売したことで、お年寄りにとって利便性が向上しました。

芽室町では、新たな農産物として落花生が作られています。令和4年からピーナッツを使った活性化イベントとして「落花生まつり」が始まり、ピーナッツ早食い選手権やピーナッツ畑を見学することで、食育の場にもつながっています。またジャガイモシストセンチュウの病気に抵抗性を持つじゃがいも「はるか」が芽室町で栽培が始まっていることから、「はるか」の認知度向上の事業を行いました。「はるか」を利用したピザやコロッケの商品を作り、観光物産協会販売したり、ふるさと納税の返礼品としてPRするなど、



牛嶋 あすみ 氏

少しずつ認知度を上げていきます。

今回の取組みで、地域の農業者と事業者がつながり、さらには、地域住民との接点が生まれました。今後も活動を継続して中心市街地を活性化していきたいと思っています。

【第2部 意見交換】

<Domingo（ドミンゴ）の取組み>



服部 亮太 氏

Domingoは、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社ローカルチームが運営を担当し、北海道の魅力を伝えるメディア・プラットフォームとして、皆さまが実施するイベントを投稿し、より多くの方々に地域の情報に気づいていただくためのきっかけづくりを行っています。

利用はHP上からどなたでも簡単に、かつ無料で公開することができます。他にもDomingoのコンテンツは、編集部おすすめのイベント、スポット、特集記事などのポジティブな話題を中心に北海道各地域の魅力を伝えています。

みなさんからの投稿も可能にしているイベント情報は、これまでに45,000件以上をご紹介してきました。WEB同様に無料のスマートフォンアプリでは、市町村を登録することでその市町村の情報を一覧することができ、投稿したイベント情報は該当する市町村の情報として更新・閲覧することができます。

みなさんからの投稿も可能にしているイベント情報は、これまでに45,000件以上をご紹介してきました。WEB同様に無料のスマートフォンアプリでは、市町村を登録することでその市町村の情報を一覧することができ、投稿したイベント情報は該当する市町村の情報として更新・閲覧することができます。

また、投稿していただいたDomingoのイベント情報の一部は、札幌中心部にあるデジタルサイネージ（ココノ ススキノ、札幌PARCOビジョン、チ・カ・ホなど）でもご紹介させていただいている他、北海道エネルギーとの連携により、各サービスステーションにあるデジタルサイネージでもご紹介させていただいています。またDomingoが独自に発信している記事でも、投稿いただいたイベント情報をご紹介させていただ

ており、こちらはYahoo!やスマートニュース、LINE NEWSなど外部サイトで配信し、より多くの方に情報を知っていただく機会を提供しています。

Domingoの「イベント投稿」は無料でご利用いただけますので、道内の活動団体の皆さまもぜひ有意義に活用していただければと思っています。

<活動報告について>

黒崎 服部さんには各活動報告を受け、感想やコメントをお願いします。



黒崎 宏氏

服部 各取組みの大変さが理解できました。活動の周知またはファンを増やす取組みについて、サポートする立場としてもいろいろと考えさせられました。

黒崎 北海道のイベントでは、冬期間という宿命的なハードルがあります。尾崎さんの団体は、今後チャレンジしようとする取組みや考えなどはありますか。

尾崎 JR稚内駅から15kmほど離れた稚内空港近くに野鳥で有名な大沼があります。冬期のイベントとして、そこでテントを張りサウナを活用したイベントを3年前から実験しています。来年から事業化を目指しています。また稚内は二次交通が弱く宗谷岬に行くバスも1日4本と少ないため、電動自転車を活用し、足を伸ばす仕組みを作りたいと思います。

黒崎 市街地を含め、熊に対するリスクや安全管理等の取組みが必要ですが、小林さんの団体ではどのように対応されていますか。

小林 摩周湖と硫黄山でレストハウスを営む弟子屈町振興公社では、今年から「熊よけスプレー」のレンタルを開始しています。利用者は、必ず使用方法のレクチャーを受け、レストハウス以外の場所でも返却できる仕組みを作っています。また熊以外では、ルート上の倒木やスズメバチなどSNSで情報発信を行っています。

黒崎 近年の旅行形態が個人旅行にシフトしていますから、イベント等の集客には、旅館、ホテル等と受け入れのPRやタイアップが必要です。島さんの団体ではどのように考えていますか。

島 一番の課題は集客です。自転車ツアーが旅行業にとっても魅力的なコンテンツとなっていくことが必要です。豊頃町には、1月中旬から2月下旬に、多くの観光客がジュエリーアイスの撮影に来ます。しかしシャッターチャンスの日の出時刻を過ぎると観光客は別の地域へと移動していきます。町内の観光関連事業者とも連携しながら、少しでも豊頃町で滞在していただき、地域にお金が落ちる仕組みができればと考えています。



島 昇之氏

黒崎 街なか商店街のシャッター街化は、どの町でも問題です。高橋さんの団体は、食の活動を通じ、次のステップとして何か考えている事はありますか。

高橋 芽室町は、通過型の地域であることが一番の課題です。まちなか応援隊では、地域に道の駅を創り、街なか商店街がテナントになることで、商店街、観光物産協会、商工会と連携し、地域の活性化に向けて芽室町に訴えかけていきたいと考えています。



高橋 広明氏

<地域の共創について>

黒崎 近年、地方では人口減少による担い手不足や地方のスーパーが無くなるなど、生活関連サービスでは、人手が足りない状況です。今後、行政や民間企業などさまざまな団体と連携した取組みが必要になると思います。地域での共創について、取組みや考えがあればお聞かせください。

高橋 芽室町は、役場とのコミュニケーションがとり

やすい環境にあり、また商工会青年部や地域の若い人たちが新しい団体をつくり一つのイベントを行うなど連携がとれています。

島 豊頃町は、二宮金次郎の孫が入植したつながりから報徳会の方々と互産互消事業が始まり、冬場に静岡のキウイ農園からキウイを持ち込み、雪室に入れる実証実験を行っています。また静岡県掛川市のサイクリストが豊頃町に訪れ、少しずつサイクリストが増えている状況です。

小林 弟子屈町も二次交通が弱く、ハイカーは数十キロを歩いたあと、元の場所に戻れません。町のタクシー会社は1社しかありませんので、観光協会とアプリを使って事前にタクシーの予約ができる仕組み等を検討しています。また農家さんの理解が進んでいないため、イベントにお誘いするなどして、理解を広めていきたいです。

尾崎 基本的に行政を意識せず取組んでいますが、連携の機会があれば、すぐ対応できるような環境は作っています。

服部 地域活動は、当該団体の人々だけでうまくいくと良いなと思っていますが、資金面を含めいろいろなところにボトルネックがあって、一つの目標を達成するまでに、困難な局面も多々あるのかと思います。そういう時に、外の力として行政もそうですが、我々を含めた民間の力と共に課題を乗り越える可能性もあるかと思っています。

黒崎 幅広い交流や連携は、地域の資源を輝かす一つのきっかけとなります。また地元や外の人と一緒に取り組むことで、あらためて地域の良さに気付くこともあるでしょう。今回ご紹介いただいたDomingoをうまく活用し、広く情報発信をすることで、新しい協働の輪が広がっていくことを期待したいと思います。

令和5年度 地域活性化活動発表会

開催日：令和6年1月29日（月）14:00～

場 所：札幌市中央区北2条西7丁目

「かでの2・7」5階「520研修室」

【第1部 地域活性化活動報告】（報告者）

- ・尾崎 篤志 / NPO法人 街にいぎ隊PRO
- ・小林由紀子 / NPO法人 てしかがトレイルクラブ
- ・越後 秀顕 / とかち・とよロコサイクリング
- ・牛嶋あすみ / NPO法人 芽室まちなか応援隊

【第2部 意見交換】（パネリスト）

- ・服部 亮太 / クリプトン・フューチャー・メディア（株）
- ・尾崎 篤志 / NPO法人 街にいぎ隊PRO
- ・小林由紀子 / NPO法人 てしかがトレイルクラブ
- ・島 昇之 / とかち・とよロコサイクリング
- ・高橋 広明 / NPO法人 芽室まちなか応援隊
- ・黒崎 宏（進行） / （一財）北海道開発協会

